『フォーラム第7号』に寄せて

斎藤　宏

武蔵野新座キャンパスに観光学部とコミュニティ福祉学部が創設されて4年になる。この間，設立にかかわる制約もあり，全カリ総合教育科目は池袋キャンパスに比べてその科目数やバラエティにおいてかなり見劣りする状況であった。また，池袋での履修が卒業要件単位とならないなどの制約もあり，「同じ立教生として」という不満があって当然であった。この号に報告されているシンポジウムの中で「何だか私は立教大学生ではなくて，＜新座大学生＞という感じ・・・」という痛烈な言葉でこの思いが語られている。2002年度を目標に全カリでは新座の総合教育科目の充実を目指し，総合A群，総合B群などその科目数とバラエティを学生数に見合った形で増加させることが出来た。また，池袋キャンパス科目の履修が卒業要件単位として認められ，発足6年目にして，名実共に全学の共通カリキュラムとなった。この4月から学生にどのように受け入れられるか楽しみでもある。しかし，両校地は一体という本学の理念のもと，両キャンパス間の交流が活発に行われるには，まだ多くの課題を残していると言わなければならないだろう。

今年度から「多彩な科目」として，立教大学で学ぶ人たちのアイデンティティを培う「立教科目」と，今日の社会の最も新しいテーマと直結する「時事科目」が開かれている。それぞれのテーマにふさわしい社会の第一線で活躍されている方に講義をお願いし，生き生きとした授業としていくこの試みは学生の好評を得ている。しかし，一方で問題もあった。大学での講義に慣れていない方を講師にお迎えした結果，成績評価に対するミス，非常勤の先生が授業の代行を知人にお願いしたり，授業を公開講演会にしたいと要求されたり，その対応に全カリは戸惑い，夜遅くまで議論したこともあった。しかし，このような試みそのものに対する批判は全くなかった。新しい試みには必ず障害はついてくるが，それを克服していかなければ新しい展望は開けないことを皆が気づいていることが感じられた。全カリは素晴らしい人たちの集まりだと楽しい気分になったこともあった。

これからは，教員と学生が授業を通して互いに向き合い，どう教え，どう学ぶかを模索し，実行していくことが重要な課題ではないだろうか。本号にある学生との対話あるいは教員間の率直な意見交換の試みの記録は，これからの在り方を示すものとして大いに参考にして頂けたらと思う。

さいとう　ひろし（全カリ運営センター総合部会長）